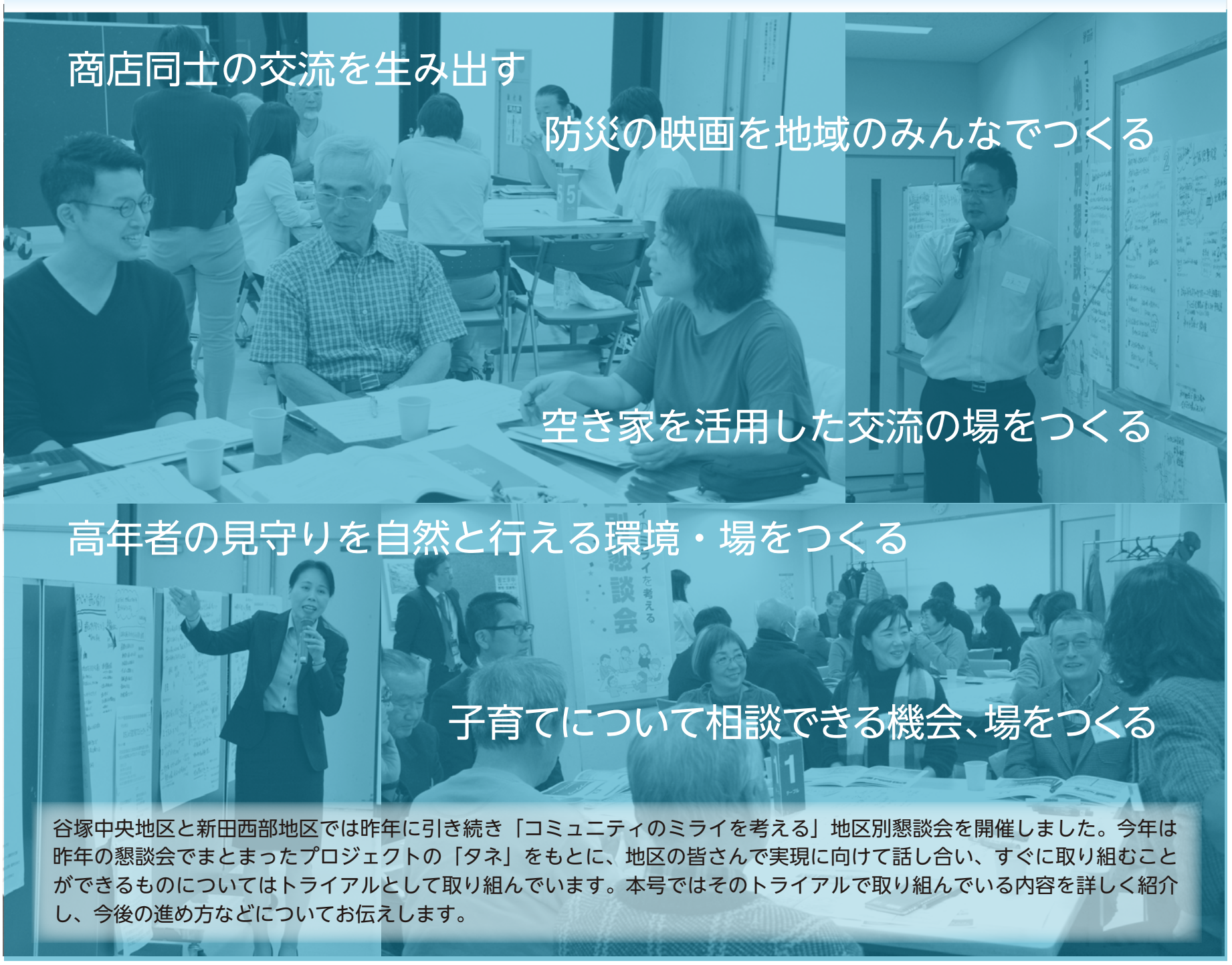
令和2年3月20日発行

\コミュニティのミライを考える/

まちづくりニュース

Vol.3

コミュニティのミライを共に創る
身近なまちづくりのプロジェクトが動き出した



谷塚中央地区と新田西部地区では昨年に引き続き「コミュニティのミライを考える」地区別懇談会を開催しました。今年は昨年の懇談会でまとまったプロジェクトの「タネ」をもとに、地区の皆さんで実現に向けて話し合い、すぐに取り組むことができるものについてはトライアルとして取り組んでいます。本号ではそのトライアルで取り組んでいる内容を詳しく紹介し、今後の進め方などについてお伝えします。

昨年の懇談会でまとまったまちづくりの「タネ」

谷塚中央地区	新田西部地区
水路を歩いて、健康づくりにつながるしかけをつくる（ふくし）	高年者の見守りを自然と行える環境・場をつくる（ふくし）
商店同士の交流を生み出す（にぎわい）	地元の農家と商店街が連携する（にぎわい）
お客さんと商店の交流を生み出す（にぎわい）	新設される公園を商店街が積極的に活用する（にぎわい）
親子で楽しく集まれる”原っぱ冒険”の場をつくる（こそだて）	子育てについて相談できる機会、場をつくる（こそだて）
子どもが企画する文化的な多世代交流の機会をつくる（つながり）	空き家を活用した交流の場をつくる（つながり）
既存の防犯・防災活動をさらに充実させる（あんしん）	防災活動に参加するきっかけをつくる（あんしん）
防災の映画をみんなでつくる（あんしん）	防災情報発信を強化する（あんしん）

1 今年度歩み始めたプロジェクトを紹介します

昨年の懇談会をとおしてまとまったプロジェクトのタネを元に、第１回、第２回の懇談会での話し合いで、プロジェクトをより具体化させていきました。そのプロジェクトのうち、すぐに取組むことができるものについては、懇談会参加者が主体となり実践してみようと、各チームでトライアルとして実際に取り組んできました。トライアルにあたっては全体の懇談会以外に各チームで集まり、話し合い、進めてきました。そのそれぞれの内容を紹介します。

こども（谷塚）「みんなのあそびじかん」プロジェクト

谷塚中央地区の懇談会で昨年度出された「子どものための教育・あそび場を充実させる」という目標に対して、1月19日に氷川コミュニティセンターで地域の子どもが自由に遊ぶことができる「みんなのあそびじかん」のイベントを懇談会の班の皆さんで開催しました。

班のメンバーは谷塚町北町会長の宇田川喜淑さん、谷塚かえで町会長の川村和実さん、マジックや読み聞かせをやっている石橋清一さん、氷川小学校ＰＴＡ会長の上迫隼人さん、「子ども未来食堂マイカ」を運営している浜薗浩美さん、親子やママ向けのイベントなどを行う「にじいろひよこ」を主宰している佐藤あやさんで構成され、皆さんでまず地区別懇談会をとおして自分たちで具体的に何ができるかを考えました。

そこで小さなお子さんがいる佐藤さんから「地区の中でも氷川小学校の学区の子どもたちが遊ぶことができる場所が少ない。遊ばせてあげられる環境を作ってあげたい」と提案がありました。その提案を受け、昨年度の懇談会の内容を元に「子どもが企画する出張児童館プロジェクト」というものをやってみようということとなりました。これは子どもがイベントを企画し、周りの大人がサポートしていくことによって、子どもと周りの大人が関わることができ、多世代交流も生まれることを目指したものでした。

そして8月から9月に開催された第1回、第2回の懇談会をとおして実際にお試しとしてすぐに取り組んでいけることがないかと話し合っていく中で、まずは子どもが気軽に遊べるイベントをやってみて、「実際に遊ぶ場所が求められているのかどうか？」などの確認、検証も含めて子ども達の反響を見てみようということになりました。川村さんからは「やるからには今後に繋がるようにしっかりと目的や検証項目を決めてやろう」と様々な経験をされているからこそのご意見もあり、イベントまで班で個別に話し合いを重ねていくこととなりました。

話し合いは10月から1月の間に3回に渡って行われ、その場では、まずイベントで何をやって、子ども達に喜んでもらうかを自分たちで考えました。班のメンバーの特技を生かして、石橋さんのマジック、佐藤さんのキットパス（口に入っても安全で簡単に落とせるチョークを使った手形アート）をメインとして、他にかるた・けん玉・オセロ・将棋などで自由に遊んでもらうこと、アンケートを実施することを決めました。

川村さんや浜薗さんからも「来てくれた子どもたちのケガなど万が一の時のことを考えなければならない」と意見があり、当日の事故などのリスクも考えながら綿密に詳細を話合いました。

佐藤さんお手製のチラシを、上迫さんが小学校へ配布し、宇田川さんは町会の掲示板に掲示し、近隣町会の方にも話をしてくれるなど地域に周知するとともに、市の広報に掲載するなどして幅広くお知らせをしました。

これと併せて、当日の運営協力いただく方への声掛けや、備品の準備なども進めていきました。

イベント当日は天候にも恵まれ、多くの子どもが遊びにきてくれました。子どもは30人、保護者が20人と会場の氷川コミュニティセンター大会議室は満員となり、多くの子どもの楽しむ声に包まれました。石橋さんのお知り合いで声かけして、サポートとして来てくれた入内島さんはけん玉、かるたなどを一緒に遊びながら教え、佐藤さんのキットパスコーナーも絶えず子どもが手形アートを楽しんでいました。

そして石橋さんがマジック教室をやると、子ども達は一生懸命マジックを学び、イベント最後のマジックショーではみんなで見入って、楽しんでいました。終了後、子ども、保護者のみなさん、それぞれにアンケートに答えてもらいましたが、子どもからは、「また来たい」と、保護者の方からも「子どもが気軽に遊べ

ふくし（谷塚）

動く+音で伝える掲示板で地域資源の情報を発信するプロジェクト

多くの人の目に留まるよう、紙媒体ではなく、映像を流せるような動きのある媒体で、地区のサロンや季節のみどころなどの地域資源を地域の人に対して情報発信、紹介することを目標として取組みを始めました。

まずは発信するために地域資源を把握しようということで、班のメンバーで地区にあるサロンを見学、取材し、情報を収集しました。取材した内容を元にした動画（スライドショー）製作に向けて、現在、地域の若い世代に作成を依頼しようと調整しているところです。

つながり（新田）

気軽に交流できるよう身近な場所の場をさがすプロジェクト

気軽に地域の人が交流できるように、まずは地域にある様々な人が交流できる場、交流の場づくりに協力してくれる方などを探そうというテーマで取組みを始めました。

班のメンバーの安斉さんが地域でお祭りを開催するタイミングがあり、そのお祭りの中で多世代交流の場づくり、お試しのイベントを実施しようとメンバーの角田さんの特技である紙芝居、エプロンシアターを披露し、お祭りに来ていた子どもからシニアまで一緒になり楽しみました。

この経験を元に次のステップとして何ができるか検討しています。

にぎわい（新田）

ごみ拾いをＲｅＤｅｓｉｇｎするプロジェクト

新田駅東口の区画整理が終わるまでに、従来から取り組んでいるごみ拾いに新しい人も巻き込み、コミュニティをつくり、みんなで駅前の有効的な使い方を考えていこうと取組みを始めました。

そのうちまずは、若い人など含めて今までごみ拾いに関わっていない人に興味をもってもらうために目を惹くポスターをつくり、改めて掲示・周知して、参加してもらおうとメンバーの1人であるデザイナーのRIKKENさんがポスターをつくり、駅前に掲示しています。今後のごみ拾いの際に反響を確認する予定です。

る場所が少ないのでこういったイベントのようなものがあれば子どもたちはきっと喜ぶと思う」など、地域のニーズも確認することができ、今後への期待の声が寄せられました。

今回、地域のニーズの確認をすることができたので、これを元に今後は続けていくためにはどうすればよいか検討を予定しています。

あんしん(新田)「防災アイデア会議」プロジェクト

新田西部地区の懇談会で昨年度出された「地域の防災など安心して暮らせるまちをつくる」という目標に対して、1月26日に新田西文化センターで「イツモ防災×防災アイデア会議」を開催しました。これは参加者が防災について学び、ゆくゆくは地域のみんなが防災リーダーになってもらうためのアイデアを出し合おうと行われたものです。

班のメンバーは新栄町会で防犯パトロールをしている中山豪さん、清門町会の竹内忠雄さん、民生委員の浅野弘義さん、その中に地区内に住む高校生の山口わとさんも加わった幅広い年代で構成され、各メンバーから様々なアイデアが出されました。

8月から9月に掛けて開催された２回の懇談会では、まず昨年度話し合われたテーマ、プロジェクトを元に、課題解決のためには、今まで防災活動に参加していない人に参加してもらう仕掛けを考えていこうと、実際に防災訓練にも参加経験のある山口さんから「防災訓練と言ってしまうと子どもは来にくいと思う。イベント名を変えるか、プレゼントとか何か楽しいことをセットにした方が効果的かもしれない」といった意見があるなど、活発な議論が交わされました。

話合いを経て、防災訓練ではなく、勉強会のような形で今まであまり防災活動に関わっていない人でも気軽に学ぶことができて、意見交換ができるような「防災アイデア会議」をお試しで開催することが決まりました。

開催に向けて昨年11月からイベント実施直前の１月までの3か月間、班のメンバーが個別に3回集まり、企画内容を練り上げていきました。

その打合せでは、自分たちでイベントの詳細を決め、また、当日のメンバーの役割分担も決め、周知、お知らせなどメンバー主導で地区の方に声かけをすることとなりました。地区へ配布するチラシは懇談会運営サポートをしている石塚計画デザイン事務所で作成し、市でも申込受付や広報掲載を行うこととしました。

いよいよ迎えたイベント当日は、雨模様で寒い日だったにも関わらず、２５名の方が参加しました。

まずメンバーの中山さんから「災害発生時には共助が非常に重要となり、こういったイベントを通じてみんなが防災に関心を持ち、地域の連携を強めていきたい。」と熱のこもったメッセージがありました。

続いて市の危機管理課からの情報提供である「イツモ防災」講座は、災害に対する日頃の備えなどについての内容で、参加者の皆さんの関心も高く、真剣に聞いてらっしゃいました。

その後は、ワークショップの形で参加者同士のグループワークを実施しました。３班に分かれ、それぞれに懇談会のメンバーが進行役として入り、話し合いを進めました。

話しあいは「①普段やっている防災の備えや、今後やってみようと思うこと」「②防災リーダー育成や地域防災活動の推進に向けたアイデア」の２つのテーマで行いました。進行役の浅野さん、竹内さん、中山さんのスムーズな進行で、非常に活発な意見交換となりました。

参加者からは「グループワークでは色々な意見が聞けて良かった」「今日の防災アイデア会議のような会が身近に開催されたらうれしい」など参加者の多くの方から有益で、良かったと前向きな意見が寄せられ、身近な防災に関するイベントのニーズを確認できました。

今後は地域の若い人などに新たに参加してもらうため、どう関心を持ってもらうかなどの検討を予定しています。

にぎわい（谷塚）

段ボールをあつめ、商店街の店主同士の交流を生むプロジェクト

商店街の商店同士の交流が少ない中で、商店街をよりにぎわせるためにまずは商店同士の交流を生もうと、店舗で出るダンボールを商店それぞれで処分するのではなく、商店街全体で一元的に集めるようにして、その場でコミュニケーションを生み出し、イベントを実施するなどで盛り上げることを目標に取組みを始めました。

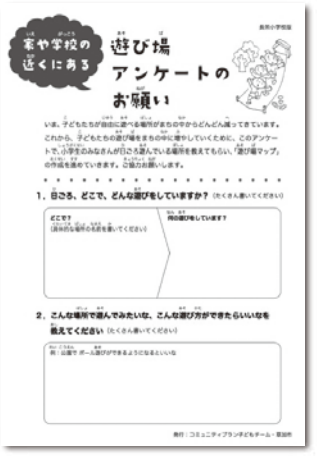
取組みの中で、段ボールを置く場所の確保のために、空き店舗のオーナーに交渉し、段ボールを置く事の許諾を得ることに成功しました。今後は商店街内で改めて話し合い、具体的な検討を進めていきます。

こそだて（新田）

こどものあそび場をみつけようプロジェクト

子ども達が主体となって、まちのなかにある色んな場所を活用し、まちじゅうをあそび場にする姿を理想像として、その子どもが遊んでいる、遊べる場を集約してマップづくりをすることを目標に取組みを始めました。

マップづくりのために、子どものあそび場情報を集めようと、長栄小学校、新田中学校に協力してもらい、子どものあそび場についてのアンケートを実施しました。今後はこのアンケート結果を元にマップづくりを検討していきます。



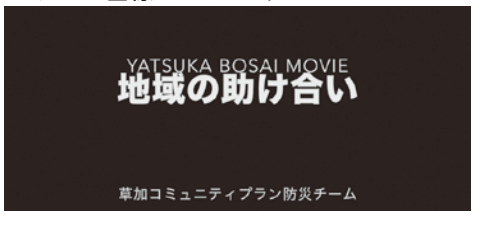
あんしん（谷塚）

防災の映画をつくろうプロジェクト

地域の防災への意識を向上するため、日頃から地域住民みんなが身近な防災について考えるためのきっかけをつくることを目標に取組みを始めました。

そのきっかけのひとつとして、みんなの目に留まり、防災について意識できるような防災映画をつくろうとみんなでシナリオ、写真などの素材を持ち寄り、動画（スライドショー）を作成しました。

地区別懇談会で披露したところ好評だったため、今後は地区の皆さんの力で地域に根差した正式版のものを作ろうと、班のメンバーの他にも協力者を募り、より良いものにしていくことを目標としています。



2 活動を続けるために必要な仕組みについて

今年度の最後となる3回目の懇談会では、今までの懇談会をとおして話し合ったこと、トライアルとして取り組んだことを踏まえて、市民活動を続けていくことに必要な仕組みを参加者同士で話し合いました。

皆さんで話し合われた必要な仕組みとしては「活動ネットワーク構築の仕組み」「人材の確保の仕組み」「場の確保の仕組み」「資金の確保の仕組み」などといったものが挙げられ、非常に活発な意見交換が行われました。このアイデアを元にして今後仕組みについて懇談会の皆さまと一緒に検討を重ねていきます。

資金の確保のための仕組み
活動を収益化しやすくする仕組み
今ある助成などを集約して知ることができる仕組み
フリマなどで自分で活動資金を生み出す仕組み

場所の確保のための仕組み
各地区の情報を集約できる場などの仕組み
空き家・空き店舗を活用できる仕組み
屋内だけでなく屋外でものびのびできる場づくり

人材の確保のための仕組み
趣味、得意なことで地域に貢献できるを登録する仕組み
高校生、大学生など若い人が参加しやすい仕組み
パソコン技術などの専門的人材の確保しやすい仕組み

ネットワーク構築のための仕組み
みんなが繋がることができる懇談会の継続
地域内の組織・団体が繋がることができる仕組み
地元企業の参加・協賛を募ることができる仕組み

3 コミュニティプランイメージについて

新田西部地区、谷塚中央地区でこれまで2年掛けて取り組んできた懇談会をとおして話し合ってきた地区の課題解決のための目標、テーマおよび、実際に取組んだトライアルも含めたプロジェクトなどを元に来年度も懇談会で話し合いを進め、地区毎のコミュニティプランにまとめていきます。

コミュニティプランは、下にあるイメージ１のような体系のイメージで冊子としてまとめていく予定です。まず自分たちの地域をより良くする地区課題解決のための大きな「目標」があり、それを実現するための「テーマ」があり、それらに紐づく具体的な取組み内容が並んでいく形となります。

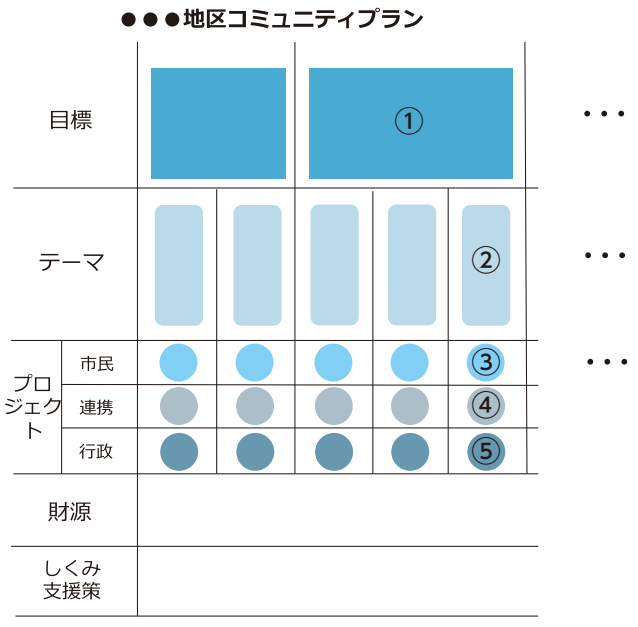
その具体的な取組み内容については、懇談会の参加者の皆さんが話し合った市民、事業者がやること、できることだけではなく、それらに関連する市の取組み、市民と市が協働してできる取組みなど、市民、事業者、市の全ての主体が取り組むことを記載していきます。

また、今年度の3回目の懇談会で話し合った市民活動を続けるために必要な仕組みについてもより詳細にしていき、関連する財源や支援策なども含めて細かに盛り込んでいく予定です。

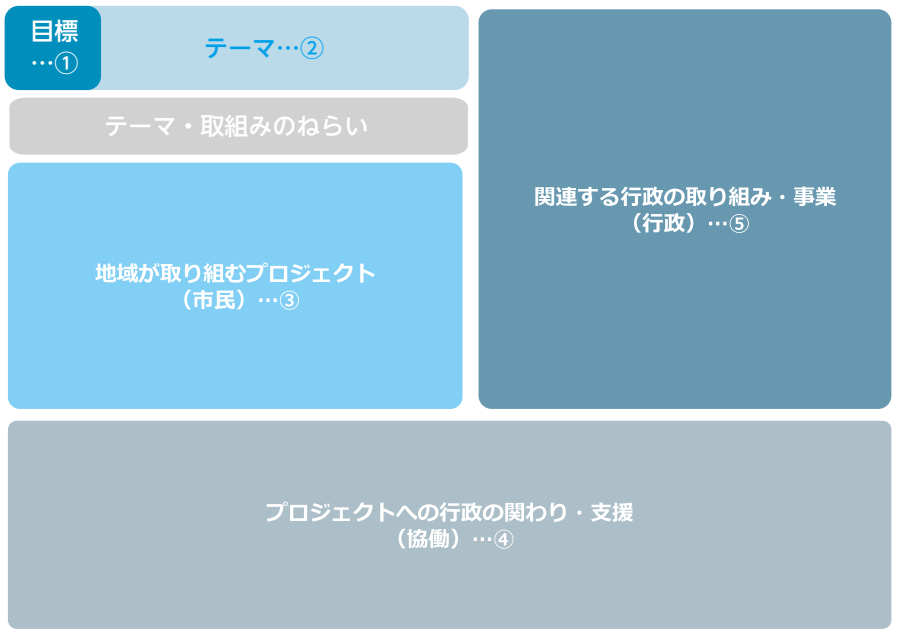
テーマ毎にイメージ２のような構成で、市民、行政、および協働の各取組みについて整理し、わかりやすく記載していきます。

懇談会に参加していない人でも、地区の皆さんがコミュニティプランを手に取って、見ていただいて、「自分でこんなことも出来るんだ」、「こういった取組み、制度があるんだ」「知らなかったけど実は市でもこんなことを取り組んでいるんだ」と気づき、知っていただき、地域の活動のきっかけになる、行政も含めた地域でのつながりづくりのきっかけとなり、地区での活動の輪が広がっていくことを目指していきます。

<イメージ1>



<イメージ2>

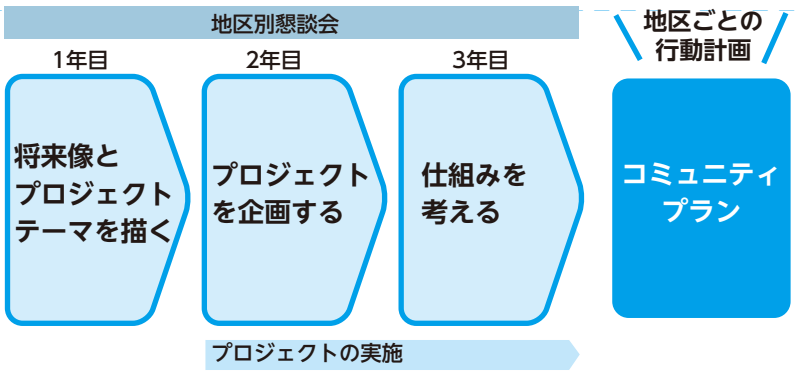


4 今後の取組みについて

新田西部地区、谷塚中央地区における懇談会の取組みは、いよいよコミュニティプラン策定の最後の詰めとして来年度も続いていきます。

４月以降も懇談会を継続して、よりプロジェクトを具体的なものにしていき、必要な仕組みもより詳細にすべく続けていきます。両地区にお住まいの方は、引き続き、奮ってご参加ください。

また、現在懇談会を実施している両地区以外にも、新たな地区でコミュニティプラン策定に向けた懇談会を開始する予定です。日程など詳細が決まりましたら周知しますので、対象地区の方はご参加を検討ください。



問い合わせ先
都市整備部　都市計画課
tel.048•922•1790　fax.048•922•3145
mail.toshikeikaku@city.soka.saitama.jp